

エコアクション21

環境経営レポート

(対象期間: 令和6年1月1日～令和6年12月31日)



株式会社ランドテクト

作成日: 令和7年3月10日

目 次

1	組織の概要	...	P 1
2	実施体制	...	P 2
3	環境経営方針	...	P 3
4	環境経営目標	...	P 4
5	環境経営計画	...	P 5
6	環境経営目標の達成状況及びその評価	...	P 6
7	環境経営計画の実施状況及びその評価	...	P 9
8	環境関連法規などの遵守状況の結果	...	P 11
9	代表者による全体の評価と見直し・指示	...	P 12

【その他添付資料】

- ・外部からの苦情などの受付状況及び対応結果
- ・環境上の緊急事態の訓練状況
- ・環境上の緊急事態一覧表
- ・環境上の緊急事態の訓練状況(リスト)

1 組織の概要

1. 事業者名 株式会社 ランドテクト

2. 代表者氏名 岡野 直次

3. 所在地 本 社: 静岡市清水区西久保1丁目5-16
資機材置場: 静岡市清水区和田島491

4. 事業活動 建設工事:(とび・土工工事・さく井工事)
土質・地質調査、地下水調査及び地すべり・急傾斜地調査
設計・施工管理(建設コンサルタント)、測量

5. 従業員数 27名

6. 環境管理責任者及び連絡担当者 岡野 圭佑

7. 連絡先 TEL 054-363-3270
FAX 054-363-2663
(E-mail: lt-k.okano@oboe.ocn.ne.jp)

8. 建設業許可

建設業	静岡県知事許可(般-2)第31386号	土木、さく井、とび・土工
	静岡県知事許可(特-6)第31386号	土木、とび
	国土交通大臣登録 質03 第2314号	地質調査
	国土交通大臣登録 第(4) -30475号	測量
	国土交通大臣登録 建06 第11099号	建設コンサルタント業者(土質及び基礎部門)

9. 事業の規模

① 設立 2001 年 3月
社名変更 2005 年 4月
事務所移転(庵原町) 2008 年 5月
事務所移転(現事務所) 2018 年 8月
資材置場仮設テント設置 2024 年 10月

② 事業規模

活動規模	単位	2021年	2022年	2023年	2024年
売上高	万円	27,574	35,551	36,400	35,400
従業員	人	22	20	26	27
事務所床面積	m ²	311.1			
倉庫床面積	m ²	72.6			
資機材置場	m ²	941			

10. 事業年度 1月1日～12月31日

11. 環境レポートの対象期間及び発行日

- 環境経営レポート対象期間 : 令和6年 1月 1日～令和6年12月31日
- 環境経営レポート発行歴 : 初回発行日 平成30年 2月 1日
今年度発行日 令和 7年 3月10日

12. 認証・登録の対象範囲

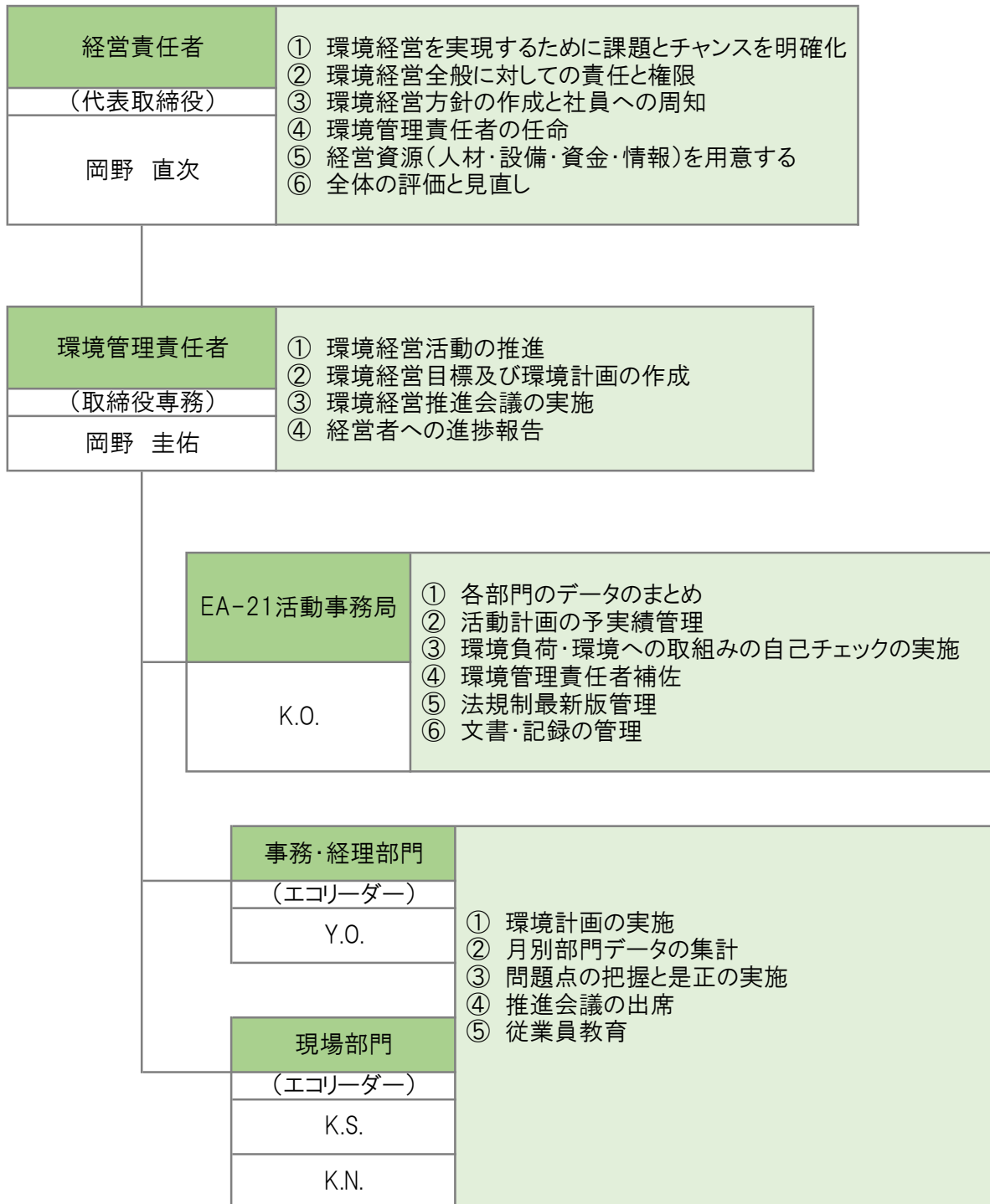
対象組織:【全組織】 本社(事務・経理部門、現場部門)、資機材置場
対象範囲: 建設工事(とび・土工工事、さく井工事)、
土質・地質調査、地下水調査及び地すべり・急傾斜地調査

2 実施体制

作成日： 令和7年3月5日

作成者： 岡野 圭佑

1. 実施体制及び環境管理組織における機能



◎ エコアクション21に従業員すべてで取り組みます。

3 環境経営方針

《環境経営理念》

株式会社ランドテクトは自然に大地に思いやりの経営理念に基づき、土木工事の事業活動を通して環境負荷の削減を推進し、地域の環境を守るため全社で自主的・積極的に環境経営に取り組み、継続的に環境負荷の削減に努めます。

《環境保全への行動指針》

1. 環境負荷の低減と環境保全活動への取組

- ① CO₂削減を目標とした省エネ活動に取り組みます。
- ② 水道使用量の節水に取り組みます。
- ③ 工事・設計・施工・測量・地質調査の技術を活かして廃棄物の3R推進による排出量の削減に取り組みます。
- ④ 同上の総合技術・知見を活かして環境に配慮した施工方法の提出を行います。

2. 環境関連法規を遵守します。

3. 環境コミュニケーションの積極的实施

- ① 社外においては、環境活動レポートを公開し、利害関係者とのより良いコミュニケーションを実施します。
- ② 社内においては全従業員にこの環境方針及び必要事項を周知し、月1回、全体会議で毎月の事業所ゴミの排出量が見える化し、意識を高め全社員参画による取組を目指します。

制定年月日 平成29年 8月31日
改訂年月日 令和 2年 4月 1日

株式会社 ランドテクト
代表取締役 岡野直次

4 環境経営目標

1. 2022年度の環境負荷実績を基準とした中期目標(年間目標値)

- ・環境経営目標は半年で一度見直す。半期の目標値は年間目標値の半分の値とする。
- ・今年度は令和4年の値を基準値に据え、目標値を改めて決定する。
- ・削減率の設定にあたっては昨年度からの実績を考慮し、削減未達成の項目については据え置きとした。

項 目		基準年 (R4年度)	R5年度	R6年度	R7年度
		環 境 経 営 目 標 値			
		削 減 率			
●二酸化炭素の削減					
	二酸化炭素の排出量 (kg-CO2)	140,325	138,220	137,561	136,886
		基準値	-1.5%	-2.0%	-2.5%
	電力使用量(kWh)	15,041	15,026	15,011	14,996
		基準値	-0.1%	-0.2%	-0.3%
	ガソリン使用量(L)	27,615	27,560	27,532	27,505
		基準値	-0.2%	-0.3%	-0.4%
	軽油使用量(L)	26,982	26,173	25,126	23,869
		基準値	-0.3%	-0.4%	-0.5%
	灯油使用量(L)	目標値は定めないが使用数量を把握			
	●廃棄物排出量の削減				
	一般廃棄物排出量(kg)	698	691	681	667
		基準値	-1.0%	-1.5%	-2.0%
	産業廃棄物排出量(kg)	44,490	44,268	43,825	43,168
		基準値	-0.5%	-1.0%	-1.5%
	建設副産物リサイクル率(%)	目標値は定めないが使用数量を把握			
●水道使用量の削減					
	水道使用量(L)	目標値は定めないが使用数量を把握			

- ※ 電力の二酸化炭素排出係数は、中部電力で公開されている中で直近のCO2排出係数「0.431kg-CO2/kWh」(2019年度版)を使用した。
- ※ R2年度より、環境経営目標に使用する項目を事務所・現場と分けず、ひとつの事業所として扱っている。
- ※ R5年度よりR4年度の数値を基準値として目標値を再度設定した。

5 環境経営計画

1. 環境経営目標達成の為の取組内容

取組目標	対象	取組内容		実施時期	責任者
●二酸化炭素の削減(電気使用量の削減)	照明		① 消灯の徹底(ノー残業デーの確実な実施)	通年	岡野(圭)
	空調		① 温度設定夏25℃ 冬21℃を実施	通年	大石
			② フィルターの定期清掃	通年	
			③ 使用していない部屋の空調停止	通年	
			④ エアコン使用時に扇風機で空気循環	通年	
	その他		① 退社時にOA機器電源オフの徹底	通年	西川
●二酸化炭素の削減(燃料使用量の削減)	コンプレッサー		① 環境対策型機種の使用	通年	鈴木
			② こまめに電源OFF	通年	
			③ エアー漏れの点検と修理	通年	
	乗用車、トラック		① エコドライブの促進(ゆっくり加速、ゆっくりブレーキ)	通年	大石
			② エコ整備車の推進(定期的にオイル交換、フィルタ交換、空気圧点検を行う)	通年	
			③ 現場に行く際はできるだけ乗り合わせを行う。(使用台数の節約)	通年	
	重機、発電機		① こまめにアイドルングストップを行う	通年	鈴木
			② 省エネ機械の使用	通年	
	冷房暖房類		① 現場における冷房機器、暖房機器の使用時間の削減	通年	
●廃棄物排出量の削減	事務所		① コピー用紙の両面使用	通年	大石
			② 集約化購買	通年	
			③ データ送受信のデジタル化	通年	
			④ 廃棄物の分別とリサイクル(金物類は売却)	通年	
			⑤ 設計書のペーパーレス化、タブレットの使用	通年	
	倉庫		① 道具類の共有化(重複購入防止)	通年	鈴木
	建設副産物のリサイクル		① 廃棄物の分別化	通年	
			② 電子マニフェストの導入(紙マニフェストの廃止)	通年	
●その他環境に配慮した自社の取り組み	施工計画		① 環境に配慮した施工計画の検討	通年	鈴木
	社員		① 各実施項目の見える化(意識改革)	通年	
	地域		① 地域の清掃活動に参加(小さな親切運動)	年1回	岡野(圭)
			② 地域の清掃を自主的に行う	年1回	
	その他(水)		① 水の節水を心がける注意喚起ポップを掲示	通年	岡野(圭)

6 環境経営目標の達成状況及びその評価

《上半期》

1. 環境経営目標の達成状況

環境経営 目標項目		令和6年1月1日 ～ 6月30日			
		上半期目標値	上半期実績値	実績/目標	達成状況
●二酸化炭素の削減					
	二酸化炭素の排出量 (kg-CO2) [以下3項目の換算値の合計]	68,780	64,398	94%	達成
	電気使用量(kWh)	7,505	7,433	99%	達成
	ガソリン使用量(L)	13,766	15,453	112%	未達成
	軽油使用量(L)	12,563	9,823	78%	達成
●廃棄物排出量の削減					
	一般廃棄物排出量(kg)	340	302	89%	達成
	産業廃棄物排出量(kg)	21,912	52,184	238%	未達成
	建設副産物リサイクル率(%)	100	100	－	達成

※ 上半期の目標値は年間目標値の半分の値とする。

2. 環境目標達成状況について評価

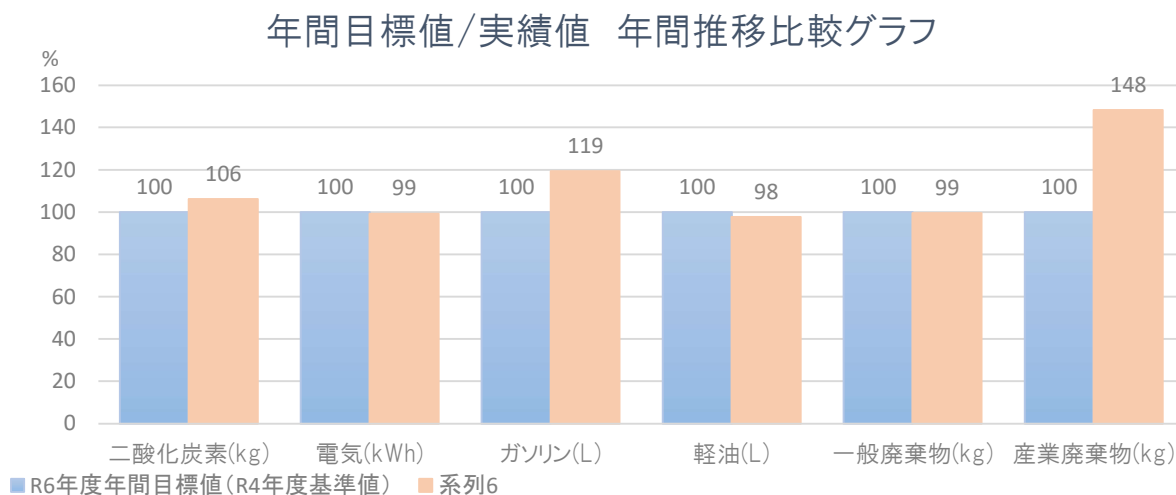
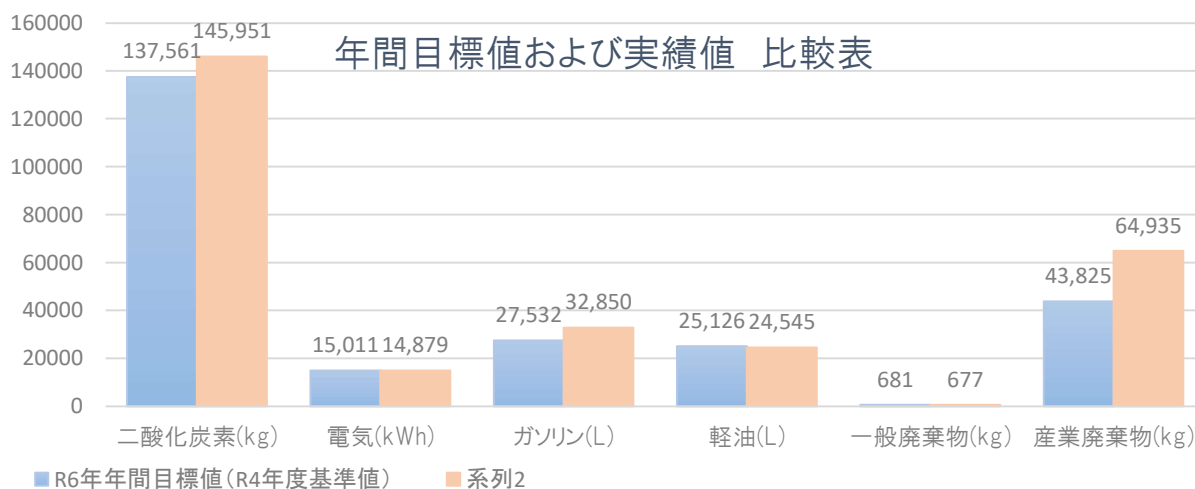
環境経営項目	達成状況	評価/原因	是正処置
●二酸化炭素の削減			
二酸化炭素の排出量 (kg-CO2) [以下3項目の換算値の合計]	○	3項目の合計値である二酸化炭素の排出量は削減基準を達成できた。	計画継続実施
電力使用量(kWh)	○	使用していない箇所の電気を消すことが徹底できており、使用量削減につながったと思われる。	計画継続実施 これから繁忙期に入るため、17時半以降の使用量が増えるが、水曜日のノー残業デーの取組を徹底し、電気使用量の削減に努める。土曜日はなるべく仕事をしない。業務の効率化を図る。
ガソリン使用量(L)	×	毎年のことだが、現場が遠方にあるため使用量を減らしていくことは難しい。また、工事部の人間が増えて車両の使用も増加したことが原因と思われる。	計画継続実施。 可能な範囲で適切なエコドライブを行う。また、相乗りを推奨し、ガソリン使用量を抑える。
軽油使用量(L)	○	使用する重機は低燃費型のものを採用している。段取りを効率よく行い、重機の使用時間を抑える意識が軽油使用量の減少につながったと思われる。	計画継続実施。 年間を通しての数字に着目していく。
●廃棄物排出量の削減			
一般廃棄物排出量(kg)	○	一般廃棄物(事務所から出る、段ボール、紙ごみ)は減少している。ペーパーレス化が浸透してきているのが良いと思われる。	計画継続実施。 今後も適切に処理していく。
産業廃棄物排出量(kg)	×	今年度は伐採木の搬出がかなり多い現場があったため、目標値と大きく離れてしまった。しかし、工事を行う上では仕方がないと思う。	計画継続実施。 分別し、どのゴミが増えているのか、数字を把握することに努める。

《年間》

1. 環境経営目標の達成状況

環境経営目標項目	令和6年1月1日 ～ 12月31日			
	年間目標値	年間実績値	実績/目標	達成状況
●二酸化炭素の削減				
二酸化炭素の排出量 (kg-CO2) [以下3項目の換算値の合計]	137,561	145,951	106%	未達成
電気使用量(kWh)	15,011	14,879	99%	達成
ガソリン使用量(L)	27,532	32,850	119%	未達成
軽油使用量(L)	25,126	24,545	98%	達成
●廃棄物排出量の削減				
一般廃棄物排出量(kg)	681	677	99%	達成
産業廃棄物排出量(kg)	43,825	64,445	147%	未達成
建設副産物リサイクル率(%)	100	100	-	達成

◎次年度の目標変更なし



2. 環境目標達成状況について評価

環境経営項目	達成状況	評価/原因	是正処置/修正点
●二酸化炭素の削減			
二酸化炭素の排出量 (kg-CO2) [以下3項目の換算値の合計]	×	売上は前年比97.4%にとどまったが、年間実績は目標値の106%に増加した。下半期には天竜地区での長期に渡る工事を多く施工しており自動車用ガソリン燃料の増が大きく響いていると考えられる。	計画継続実施 遠方山間部での仕事の為、移動距離が増える。引き続きエコ運転を心がける。
電力使用量(kWh)	○	年間実績は目標値の99%に抑えられている。こまめな消灯、使用しないOA機器の電源オフの効果が出ているとみられる。 また、社内で電子小黑板アプリの使用率が上がり、帰社後の写真整理時間が短縮されるようになったことも一因として挙げられる。	計画継続実施。 ノー残業デーなどの取り組みを実施していくとともに、業務遂行におけるDX推進や簡略化をして業務の効率化を図り作業時間の短縮に努める。
ガソリン使用量(L)	×	年間実績は目標値の119%に達した。二酸化炭素排出量増加の主たる要因である。天竜地区など遠方での集水井施工など長期間に渡る工事受注による影響と考えられる。	計画継続実施。 心に余裕を持った運転(エコ運転)を心がけ、省エネに努めていく。
軽油使用量(L)	○	年間実績は前年比102%と増加したが目標値の98%となった。低燃費型の機械使用により使用量を低く抑えることができている。	計画継続実施。 受注工事の工種により軽油使用量が大きく変化するため、大幅な削減は難しい。重機は必要十分な稼働をするよう注意し、無駄にアイドリングしない等、使用量削減の意識を保つ。
●廃棄物排出量の削減			
一般廃棄物排出量 (kg)	○	年間実績は目標値の99%にとどまっている。 従業員は増加しているものの、公共工事では情報共有システムの導入・推進に伴って成果品はWeb上で電子納品する流れが確立され、紙資源等の廃棄が削減されつつある。 社内における会議でもタブレット端末や大型ディスプレイを用いるようになってきており削減に一役買っている。	計画継続実施。 公共事業におけるペーパーレス化が推進されている。社内でもタブレット端末を用いた会議を行っている。今後も積極的に導入を検討する。
産業廃棄物排出量 (kg)	×	年間実績は前年比102%、目標値の147%になり増加した。上半期に大量の伐採・処分を伴う工事を受注したことによる影響である。 建設副産物のリサイクル率は100%を維持しており、今後も適切な処分を継続する。	計画継続実施。 受注工事の工種により排出量は大きく変化するため、今後も産業廃棄物の数量を把握し適切な処分を徹底する。

7 環境経営計画の実施状況及びその評価

1. 環境経営計画取組内容の評価

対象	取組内容	評価	是正、今後の取り組み
照明	① 消灯の徹底 (ノー残業デーの確実な実施)	○ ノー残業デーの意識づけはできている。日中人が出払っている所の電気は消灯する。	継続実施
空調	① 温度設定夏25℃ 冬21℃を実施	△ 夏日、猛暑日の増加により冷房設定温度を下げた。	心身に負担をかけない程度に節電を心がける。
	② フィルターの定期清掃	○ 実施できた(別紙:エアコン点検表参照)	継続実施
	③ 使用していない部屋の空調停止	○ 実施できた	継続実施
	④ エアコン使用時に扇風機で空気循環をする	○ 実施できた	継続実施
その他	① 退社時にOA機器電源オフの徹底	○ 実施できた	継続実施
コンプレッサ	① 環境対策型機種を選択・使用	○ 実施できた	継続実施
	② こまめに電源OFF	○ 実施できた	継続実施
	③ エアー漏れの点検と修理	○ 実施できた	継続実施
乗用車、トラック	① エコドライブの促進(ゆっくり加速、ゆっくりブレーキ)	○ 実施できた	エコドライブについての資料をデータ配布、更なる意識向上に努める。
	② エコ整備車の推進(定期的にオイル交換、フィルタ交換、空気圧点検を行う)	○ 実施できた	継続実施
	③ 現場に行く際はできるだけ乗り合わせを行う。(使用台数の節約)	○ 実施できた	継続実施
重機、発電機	① こまめにアイドリングストップを行う	○ 実施できた	継続実施
	② 省エネ機械の使用	○ 実施できた	継続実施
冷暖房類	① 現場における冷房機器、暖房機器の使用時間の削減	○ 実施できた	継続実施
事務所	① コピー用紙の両面使用	○ 実施できた	継続実施
	② 集約化購買	○ 実施できた	継続実施
	③ データ送受信のデジタル化	○ 実施できた	継続実施
	④ 廃棄物の分別とリサイクル(金物類は売却)	○ 実施できた	継続実施
	⑤ 設計書のペーパーレス化、タブレットの使用	○ 実施できた	継続実施
倉庫	① 道具類の共有化(重複購入防止)	○ 実施できた	継続実施
建設副産物のリサイクル	① 廃棄物の分別化	○ 実施できた	継続実施
	② 電子Manifestの導入(紙Manifestの廃止)	△ 実施できた	電子Manifestに全移行 ※紙対応のみの業者がある。
施工計画	① 環境に配慮した施工計画の検討	○ 実施できた	継続実施。切土、盛土、樹木の伐採などは必要最小限に抑え自然環境をできる限り保全しながら活用する計画立案に努める。
社員	① 各実施項目の見える化(意識改革)	○ 実施できた	継続実施。エコアクションのレポート等を社内内で回覧する。
地域	① 地域の清掃活動に参加(小さな親切運動)	△ 1/2回実施できた	継続実施 今年度は6月15日に参加
	② 地域の清掃を自主的に行う	○ 実施できた	大掃除の際に置場周辺の草取りを行った。
その他	① 水の節水を心がける注意喚起ポップを掲示	○ 実施できた	継続的実施

- ＜備考＞
- 評価判定 ○(良くてきた)/△(まあまあできた)/×(できなかった)/-(実施が見送られた)
 - 達成できたものに関しては項目を削除し、新たに別項目で追加していく。

2. 環境経営計画の実施状況

◆節電・節水喚起の注意表示◆
節電・節水意識向上のため、各所に継続設置



事務所内 掃除の状況(6月)



事務所内 掃除の状況(12月)



◆社内清掃(社屋、資材置場)◆
整理整頓を行い、誰でも使いやすい状況を常に保つ。
道具の見える化・共有化により重複購入を防ぐ。
本年も12月と6月に実施。

地域清掃活動(6月)



◆地域清掃活動◆
小さな親切運動本部主催のクリーン作戦に参加し、地域の美化に貢献する。
本年は6月15日の活動に参加した。

8 環境関連法規などの遵守状況の結果

評価日 令和7年3月5日

評価者 環境管理責任者 岡野 圭佑

1. 当社に関わる主な環境関連法規一覧

法令等の名称	条項	適用内容または規制基準値	備考	遵守 評価
廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)	第6条の2第6項	一般廃棄物の収集運搬業者への委託処理	市条例の収集・処理基準の遵守	○
	第12条第5項	産業廃棄物の委託処理	収集運搬及び処分許可業者への委託	○
	第12条第6項	運搬又は処分を委託する場合の処理基準の遵守	処理業者と契約書の締結	○
	第12条第7項	産業廃棄物の発生から最終処分するまで適正に処理されているか確認の実施	処理業者と契約書の締結	○
	第12条の3第1項	マニフェストの交付		○
	第12条の3第2項	マニフェストの保管	A票、5年間保管	○
	第12条の3第3項	収集・運搬業者の管理票交付者へのマニフェスト返却	B1票の90日以内の送付等	○
	第12条の3第6項	マニフェストの保管 マニフェスト交付状況の知事報告	B2、D、E票の5年間保管 6/30までに報告書提出	○
	第12条の3第8項	管理票写しの送付がない時の適切な措置の実施	運搬又は処分業者からのB2(90日以内)、D、E票(180日以内)の期間内返却	○
建設リサイクル法(建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律)	第5条	建設業者の責務	分別の励行、リサイクルの推進	○
	第10条	対象建設工事の発注者又は自主施工者の対象工事の届出	発注者に工事計画等を説明し工事着手7日前までに市長に届出書を提出	○
	第12条	対象建設工事受注者の発注者への届出事項の説明		○
	第16条	対象建設工事受注者の再資源化等の実施		○
騒音規制法	第14条	特定建設作業の実施の届出	バックホウ(原動機定格出力80KW以上)を使用する作業	○
	第15条	特定施設の届出改善勧告及び改善命令	規制基準の遵守(指定地域・時間帯規制)	○
振動規制法	第14条	特定建設作業の実施の届出	くい打機	○
	第15条	特定施設の届出改善勧告及び改善命令	規制基準の遵守(指定地域・時間帯規制)	○
フロン排出抑制法(フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律)	第16条	冷凍空調機器:全ての第一種特定機器が対象 ①自身での「簡易点検(3ヶ月に1回以上)」実施 電動機定格出力に応じ有資格者による「定期点検」 ②空調機(50kW以上)1年に1回以上 ③空調機(7.5kW~50kW未満)3年に1回以上 ④冷凍冷蔵機器(7.5kW以上)1年に1回以上	すべての機器で点検実施 ②、③、④ 有資格者による定期点検実施	○
建設業法	第3条の1	国土交通大臣に対する一般建設業の許可の申請		○
水道法	第25条の2	指定給水装置工事事業者の指定		○
静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例	第8条	産業廃棄物管理責任者の設置		○
	第10条	委託先の実地確認と記録の保存		○
環境基本法	第8条	自主努力義務、行政への協力	EA21の取組	○
地球温暖化対策推進法	第5条	自主努力義務、行政への協力(温室効果ガス抑制措置)	EA21の取組	○
循環型社会形成推進基本法	第11条	廃棄物の3R及び適正処理の推進	廃棄物の分別、行政への協力(廃棄物等の内、有用な物の循環的な利用を促進)	○

2. 環境関連法規の遵守状況の結果

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

3. 違反、訴訟等の有無

関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟は過去3年間ありませんでした。

9 代表者による全体の評価と見直し・指示

1. 本年度の総括

本年度は受注工事数が10件減少したにもかかわらず、売り上げは前年比97.4%と2.6%の減少に留まっている。単独の規模・金額が大きな工事の受注が増加したことによるが、これらを遂行できたことは社員個々の能力および協調性の向上が成した成果といえる。

環境経営目標については電気使用量、軽油使用量が目標値をわずかに下回ったが、ガソリン使用量が大幅に増加し、前年比119%に達した。令和6年は静岡県中・西部地区における工事施工が中心となり、また工期が長くなる工事が多かったため、現場への移動で自動車走行距離が増え、燃料消費が多くなったとみられる。移動距離は受注工事ごとに異なるため、ガソリンの大幅な使用量削減は望めないが、現場移動時の乗り合わせ等により、車の使用台数を減らし不要な燃料消費を抑えるとともに、社用車更新のタイミングでエコカーを導入するなど、使用量削減には意識的に取り組んでいきたい。

2. 代表者による全体評価・見直し指示

見直し項目		次年度 変更の 必要性	「有」の場合指示事項等
全体評価			既設の集排水ボーリング工の機能改善・維持を目的とした洗浄工については昨年度より数件ではあるが施工できている。施工から数十年が経過した施設は多数存在するため、今後も随時管理者に提案を行い、積極的に実施していきたい。 また、昨年末から地すべり動態観測・集排水ボーリング効果検証を目的としたクラウドセンシングシステムの開発・構築を計画しており、地すべり活動の検知と対策工の稼働状況を精度高く評価することで、的確な維持管理工法を提案し、施設の長寿命化や、適切な維持管理方法の確率を推進する。
1	実施体制	有・ ☒ 無	
2	環境経営方針	有・ ☒ 無	
3	環境経営目標	有・ ☒ 無	
4	環境経営計画	有・ ☒ 無	
5	取り組み結果	有・ ☒ 無	
6	その他	有・ ☒ 無	

令和 7年 3月 5日
株式会社 ランドテクト
代表取締役 岡野直次

外部からの苦情などの受付状況及び対応結果

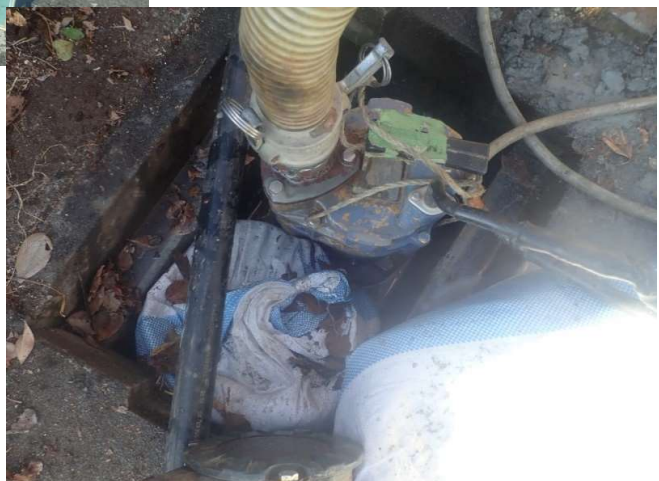
作成 管理担当:岡野 圭佑

No.	情報 入手日	情報 種類	通報者	通報 方法	住所 連絡先	内容	回答の 必要性	対応内容
1	／	対策・ 苦情		電話・ メール ()	令和6年1月1日～12月31日の期間において、苦情等の申し入れ・受付はありませんでした。			
2	／	対策・ 苦情		電話・ メール ()			必要・不要	
3	／	対策・ 苦情		電話・ メール ()			必要・不要	
4	／	対策・ 苦情		電話・ メール ()			必要・不要	
5	／	対策・ 苦情		電話・ メール ()			必要・不要	
6	／	対策・ 苦情		電話・ メール ()			必要・不要	
7	／	対策・ 苦情		電話・ メール ()			必要・不要	
8	／	対策・ 苦情		電話・ メール ()			必要・不要	

環境上の緊急事態の訓練状況

訓練状況

現 場 名	令和6年度地すべり対策中部地区水抜きボーリング2工事
訓練実施年月日	令和7年2月26日
訓練実施場所	阿僧水抜きボーリング現場
訓練実施参加者	エコリーダー1名、社員2名
想定訓練内容	削孔水(汚泥)を一度沈殿させ、上澄みのみを排水する設備づくり
想定パターン	パターン4
環境への被害	・削孔スライムが側溝に溜まり詰まりの原因になる。 ・側溝が詰まっている際に雨が降ると雨水が農作地に入り込み、農作物がだめになる。
環境施設概要	・側溝内に汚泥を貯める箇所を3か所作り、そこに一度貯めることで汚水の中の泥を沈殿させる。 ・水と土を分離させた後、綺麗な上澄みを排水することで側溝や河川を汚すことを予防できる。 ・削孔スライムが広範囲に広がることを防ぐ役割も担っている。
評価/課題点	・施工箇所が農地周辺にあり、削孔汚水が農地に流れ込む被害が考えられた。その為、側溝を上手く活用することで、ノッチタンクの機能を再現できた。
改訂の可否	・検証の結果、改訂の必要はなし。



環境上の緊急事態一覧

事故や天災等を原因とする環境への重大な影響を最小限に留めるため、想定される事態を挙げ対応策を定める。

想定パターンを選択し、社員に定着させるために定期的に訓練を実施する。対応策の試行後有効性を検証し、必要に応じて改定する。

想定パターン	想定される緊急事態	原因	対応策
パターン1	粉塵の飛散	削孔時の粉塵が風で舞う。	・散水を行う。施工ヤードの囲い、排気口にトンパックを付けて回収する。
パターン2	セメントミルク、濁水の流出	送水ホースの詰まり、破裂、接続金具の破壊	・直ちに使用中止、漏れ箇所確認 ・現場周辺の確認 ・吸水シートで漏れ出たセメントミルクの回収 ・日常点検、減水材の使用、短時間施工。
パターン3	ボーリングマシン作業中に油圧ホースが切断し、作動油が噴き出し、隣接した川へ流出してしまう。	・油圧ホースを重機で巻き込み切断してしまう。	・土嚢とオイル吸着マットで汚染範囲を囲って拡大を防ぐ。 ・油圧ホースが目立つように囲いやリボンで養生する。 ・接続金具の定期点検を行う。部品を早めに交換する。
		・ホースの劣化から亀裂が広がり切断に至る。	
		・接続金具の劣化により接続部が破壊される。	
パターン4	処理していない状態の削孔水が流出してしまう。	・タンクからオーバーフローしてしまう。	・削孔水がタンクに入っているか、定期的に確認をすること。 ・ホースの吸い込み口にネットを付ける。 ・削孔水がタンクからあふれていないか定期的に確認し、沈殿したスライムはこまめに回収する。 ・ホースの吸い込み口にネットを付けることで異物がホース内で詰まることを防ぐ。
		・送水ホースが詰まり漏れてしまう。	

環境上の緊急事態の訓練状況(リスト)

緊急事態想定リスト

番号		現場名	訓練内容	事故及び緊急事態の想定
1	事務所 作業所		津波	南海トラフ地震時の対応
2	事務所 作業所		浸水	台風による浸水 大雨による浸水
3	事務所		断水	台風による断水 地震による断水
4	事務所 作業所		交通事故	通勤時の交通事故 現場作業時の交通事故
5				
6				
7				
8				
9				
10				

番号	訓練日	現場名	訓練内容	事故及び緊急事態の想定
1	H31.3.1	平成30年度地すべり対策西山寺2期地区集水ボーリング2工事	落下、機械・機材の下敷	吊り荷の落下、機械の横転
2	R2.2.29	平成30年度地すべり対策西山寺2期地区集水井3工事	地震時の対応	集水井内に閉じ込められる、火災などの二次災害
3	R2.2.29	令和元年度地すべり対策西山寺2期地区水抜きボーリング1工事	地震時の対応	道路の寸断
4	R3.9.3	本社事務所火災	火災時の対応	たばこの吸い殻からの出火 配線プラグ間に埃が溜り出火
5	R4.12.20	令和4年度県単地すべり(緊急治水)天宮工事	削孔水の排出方法	削孔水を分離する設備の故障及び不備
6	R5.9.28	令和5年度[第34-S3316-01号]大日堂急傾斜地崩壊対策工事(鉄筋挿入工)	削孔水の排出方法	R4年の訓練を元に現場にあった分離施設の設置
7	R7.2.26	令和6年度地すべり対策中部地区水抜きボーリング工事	削孔水の排出方法	R4年の訓練を元に現場にあった分離施設の設置
8				
9				
10				